

## 2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の競技会場等における木材利用について

## 日本スポーツ振興センター（JSC）が整備する競技会場

平成30年1月時点

施設名	対応状況	木材利用見込量	木材利用の方向
新国立競技場	着工済	約2,000 m <sup>3</sup>	屋根の構造材にハイブリッド材を使用（木材＋鉄骨） 建物外周の軒庇に木材を使用 内装の木質化

## 東京都が整備する主な競技会場

施設名	対応状況	木材利用見込量	木材利用の方向
有明アリーナ	着工済※	約 1,060 m <sup>3</sup>	屋根の構造材にハイブリッド材を使用（木材＋鉄骨） 内装の木質化
オリンピック アクアティクスセンター		約 40 m <sup>3</sup>	内装の木質化 ※設計見直しにより精査中
海の森水上競技場		約 40 m <sup>3</sup>	内装の木質化
カヌースラローム会場		—	※管理棟など設計中で木材の使用なし
有明テニスの森		約 430 m <sup>3</sup>	屋根構造の一部に木材を使用 （クラブハウス・インドアコート棟）
大井ホッケー競技場		—	スタンド棟の内装で木材を使用

## 大会組織委員会が整備する主な競技会場等

施設名	対応状況	木材利用見込量	木材利用の方向
選手村ビレッジプラザ	基本設計終了 （使用木材について 地方自治体を対象に公募済）	約 2,000 m <sup>3</sup>	ビレッジプラザは、日本の伝統・文化を体感できるように木造とする。全国の地域から提供された木材を利用して建設し、大会後は地域でレガシーとして活用するプロジェクトを実施。
有明体操競技場	着工済	約 2,300 m <sup>3</sup>	屋根の大梁、外壁等に木材使用を予定。その他、コスト・効果を検証して発注仕様を決定

## 選手村の宿泊棟

施設名	対応状況	木材利用見込量	木材利用の方向
宿泊棟（住宅棟14～18階建）21棟	着工済	—	床材や建具で木材を使用